

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成22年 6月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771101181		
法人名	有限会社 清寿会		
事業所名	グループホーム正寿苑		
サービス種類	介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府岸和田市稲葉町2552-2		
自己評価作成日	平成22年5月27日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町 1797
訪問調査日	平成22年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りは山やみかん畑に囲まれた自然豊かな環境で春は鶯の声も聞こえ、苑の畑では旬の野菜を収穫し、その季節ならではの食事を提供し庭でのバーベキューなど季節を目と肌、食で楽しんで頂くことができます。献立は職員と利用者で話し合いながら決めて買い物にも一緒に行き、調理にも参加して頂いています。居室は全室畳で、家具や調度品、布団は本人が慣れ親しんだ物を持参して頂き、今までの生活を出来るだけ継続して安心して穏やかに暮らして頂けるようにしています。毎月、担当者から本人の「近況報告書」を家族や知り合いに送付したり「正寿苑だより」で日々の暮らしや様子を家族や地域の回覧板でお知らせをして気軽に立ち寄って頂ける環境を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム正寿苑」は岸和田市の山手地区にある。近隣には大阪府の蜻蛉池公園があり、ホームの周辺には、野菜畑やみかん畑、竹林など自然が豊かな環境に囲まれている。ホームのリビングからは広い庭が見渡せ、ウッドデッキや花畑が広がっている。管理者は積極的に岸和田市や地域の認知症の啓蒙活動を行っている。理念を具体化していく上で2ユニットがそれぞれ分かり易い目標を掲げ、また職員一人ひとりが(年度初めに)実行計画を作成し、玄関の掲示板に掲示して実践している。利用者の情報はセンター方式を用い、介護計画作成にはグループホーム協会の様式を活用している。介護職員は一人ひとりの利用者の情報を共有し、日常生活を支援している。また、受診時医師との連携を行うため、必ず2週間の利用者状況を医師に報告をしている。利用者がホームでの生活を穏やかに暮らし続けることができるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価（Bユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を念頭におき、各ユニット間でスタッフによる理念を作り上げ、理念を共有していくために各スタッフが期間、目標、実行計画をたて取り組んでいる。	事業所が独自に作成したわかりやすい理念を事業所内に掲示し、その趣旨を踏まえた年度目標を各ユニットで作成し玄関入り口の掲示板に掲載している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や地域の公民館で苑の催しや認知症の方が地域で暮らす続けることの普及活動などを行っている。	地域の町役員や民生委員の方々と積極的に関わりを持ち、地域への認知症の講座をはじめ、事業所の行事にも地域の方の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして地域の方へ養成講座を行い、日常的な対応など実際の事例など取り上げて日々の暮らしの中で出来る工夫などを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や苑の報告をして参加者からの質問や意見を頂き情報交換しながら解決に向かうようにしている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。会議には利用者・家族や地域の関係者の出席を得て、外部評価の結果報告、事業所の月次報告や火災時の対応について話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	担当者は普段より、利用者または家族、苑の運営に関わることなど報告や相談しながら、協力して頂いている。又空き情報の確認を行ううえで、当苑へ入苑に至ったケースなどもある。	事業者からは、市の担当者へ入苑状況や、苑の運営に関する事を相談し積極的な情報交換を行い、また市町村に協力して認知症に関する理解を深めるための学習会の講師をするなど市町村との連携体制ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関施錠は夜勤帯のみ行っている。安全で自由な環境作りに取り組み、家族から施錠の要望がある場合にはきちんと説明をして了解を得ている。身体拘束につながるケアは苑全体で理解したうえで一切行っていない。	職員は身体拘束をしないケアについて内部で話し合いを持ち理解している。日中は玄関の施錠はしていない。帰宅願望の強い利用者の対策として地域の協力をお願いしている。	

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待についてスタッフや地域の方、家族と一緒に市の担当の方の研修を受けてみんなが虐待とはどういうことなのか理解し共有の視点を持っている</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護や成年後見制度の研修に参加している。又必要と思われる方については包括に相談するなど、家族へ説明をして話し合いながら、協力や支援を行っている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に重要事項について説明をし、内容を理解して頂き、質問や疑問を互いに確認したうえで契約している。入苑前後に関わらず、随時、質問や疑問などは気軽に連絡して頂けるように説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置や第3者委員の説明を契約時の説明している。カンファレンス会議に家族に参加して頂き、個別に意見や要望を聞く機会を設けている。頂いた意見などはすぐにスタッフ間で改善方法を話し合うようにしている。</p>	<p>訪問の少ない家族には請求書を送るとき手紙を同封している。利用者・家族からの意見・苦情等を積極的に聴取している。家族から職員の名前と顔がわからないという意見が出され、その結果玄関のボードに職員の顔写真と名前を掲示するようになった。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>各棟ミーティングなどに参加し問題や課題について把握するようにしている。個人面談を行い、スタッフ個人々からの質問や要望を聞けるよう、又解決できるように配慮している。</p>	<p>2ヶ月に1回の各棟ミーティングで職員の意見を聴取する場を設けている。また、年1回個人面談を実施し、話し合いの場を持っている。出された意見から、飲み忘れや誤薬を防ぐために薬の保管方法を名刺ホルダー式のファイルに変更した。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各スタッフが抱えている悩みや体調を把握し勤務時間などを考慮している。やりがいを持てるよう目標設定や実行したことに対して向上できるようバックアップを行うようにしている。給与についてもキャリアパスの表をスタッフに公開している。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各スタッフが個々にスキルアップできるよう、大阪社協の研修、市の研修、協力病院の院内研修、苑内においては現況を見ながらその問題に合った研修を行うようにしている。</p>	

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の事業者連絡会を通じて交流している。、地域での講座などは他事業者と合同で開催するなど互いに協力しながら、情報交換をしている。グループホーム情報交換会などにも参加している。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前に苑に来て頂き、他利用者と一緒に過ごして頂き、その様子を見ながら本人の気持ちを受け止めた関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前に家族が困っていることや苑生活への不安や要望をしっかりと受け止め、本人と家族との関係が円滑に築けるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入苑時、家族や本人の状況や思いを受け止め一番良いと思われる方向性を相談しながら、タイミングを考慮している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の長年培ってきた習慣や知識を傾聴、尊重しながら、一緒に作業をし、同じ喜びや達成感を感じられるようにしている。又共有する時間の中の関わり方が一方的にならないよう、視点が変わるようスタッフにも声をかけている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常に状況、状態の報告、カンファレンス会議にも参加して頂き、家族とスタッフが情報を共有しながら、共に解決し安心して生活が送れるよう努めている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に行事（法事や墓参りなど）を勧めている。又家族や友人の面会時には居室でゆっくり、過ごして頂けるよう工夫している。	利用者がこれまで培ってきた人間関係や、社会との関係などの情報を把握している。通院介助、お墓参りや馴染みの美容室への外出介助などの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係などを考慮し食事時の席の配置や一人でも落ち着けるスペースの確保をして利用者が安心して過ごして頂けるよう配慮している。、		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退苑後も家族が立ち寄って、野菜などを差し入れて下さったり、お互いに近況報告をしたり、認知症の家族を支えておられる友人の相談などに応じている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入苑前より本人や家族、知人だけではなく関わってきたサービス事業者や医療機関からの情報を提供して頂き嗜好や興味のある事や馴染みの事の情報収集に努め本人の話を傾聴し思いや希望を把握している。又情報が共有できるようにセンター方式を活用している。	一人ひとりの思い、暮らし方や希望、意向などを把握し、職員間でその情報の共有を図っている。センター方式を活用し時間をかけて利用者の意向や、希望を収集し記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入苑前より自宅や利用されているサービス事業所に訪問し本人の生活や安心される環境を把握していく。入苑後も介護に携わった方たちと関係を保ち連携しながら理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方をセンター方式の焦点情報シートを活用、確認して心身機能の状態に合ったケアやその人らしい生活ができるよう本人のペースを大事に支援している。		

26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の開催、案内を家族に送付し出来るだけ参加して頂けるよう日程調節をおこなったり、書面にて要望や質問などを記入して頂き、本人や家族の望む生活を支援している。モニタリングの結果を具体的にケアに反映していく。	介護計画の作成は家族の参加を呼びかけており、サービス担当者会議を開催して意向を聞き取っている。大阪グループホーム協会の様式（細目ごとに課題・目標・援助内容が設定されている。）を活用して、その人らしく暮らし続けるための計画を作成している。また、モニタリング表を用いてケアカンファレンスを行い見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式の心身の情報シートや各機能を有する個別記録し（カンファレンス・日毎の介護記録・受診記録・申し送り・連絡ノート）等に記入して情報を共通しチームケアが図れるよう支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単独型ユニットの特性を活かし、本人や家族の実情に合わせ柔軟な対応を行い、本人の望む生活の支援を目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の協力と理解を得てながら、町内の消防訓練などに参加したり、町内の活動や催しを利用者が安全で安心して参加できるよう協力して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入苑前に主治医から情報を頂き、家族と相談して苑生活を送る上で必要な医療機関と連携している。定期受診以外の受診に関しては家族に連絡、相談しながら希望に沿えるよう支援している。	利用者、家族が希望するかかりつけ医の受診は原則として家族がおこなっている。都合が悪い家族にはホームが支援している。受診時の状態報告書を医師や家族に提供し連携をとっている。2箇所の協力病院から医師が往診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	内科、精神科共に往診や受診の際、馴染みの看護師に日々の状態を把握して頂いている。またスタッフの相談にも適切な指示や情報交換しながら連携している。		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は本人の情報をすぐに提供し、入院に必要なものや本人が愛用されていたものなどを持参しCWやドクターに家族や本人の状況を報告、情報提供しながら、早期退院に向けて話し合いしている。退院後の苑生活についてはCW、家族と共に本人にとって適切なサービス利用について相談や支援を行っている		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化を職員間で把握し家族には重度化や終末期の在り方について必要に応じて話し合っている。看護師が常駐していないことは契約前に伝えているが、「できない」と決めつけずに、家族や社会資源、主治医、協力医療機関と連携しながら積極的に取り組んでいる。	日頃から日常の健康状態の変化を把握するよう努めている。現在終末期の利用者が、生活をしているが病状は落ち着いている。状態により点滴を要する時には通院支援で対応する予定である。終末期には医師と相談して出来るだけ支援をする方向に取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて対応マニュアルを作成している。訓練や研修は行っていないが、今後積極的に行っていきたい。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。スタッフが担当に積極的に行い、普段よりシュミレーションの話し合いなど行っている。又町内の消防訓練へ参加、苑の消防訓練に参加し、運営推進会議などで協力依頼をしている。	消防訓練は避難訓練を中心に年2回実施している。訓練には自治会、近隣の顔馴染みの人も参加している。町内の消防訓練にも参加している。消火器、火災通報器、等を設置し、今年度にはスプリンクラーを設置する予定である。運営推進会議で非常時の協力を依頼している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが生活してきた中で食べ物や趣味、仕事などの大切にしてきたことをスタッフが情報共有、尊重した対応を心掛けている。	職員は、利用者のプライバシーの確保は、人としての尊厳と権利を守る基本とすることを理解し、日常生活のなかで一人ひとりを尊重した言葉かけや、対応をしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望される暮らしを支援できるように日常生活の中から聞き取れるような関わり方をしている。献立作りを一緒に行ったり、買い物同行し好きな物を選んで頂けるようにしている。		

38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や状態を見極めながら、生活リズムやペースに沿って支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望の毛染めやカットを行っている。希望があれば一緒に洋服を購入同行したり、着替えなどの準備を一緒に行いご自身で選んで頂けるよう支援している。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑の畑で一緒に収穫を行い、旬の野菜などを取り入れ、個々の状態合わせて調理の参加をして頂いている。利用者、スタッフは一緒に献立作りをし、同じテーブルで同じ食事を一緒にしている。	旬の食材はホームの菜園や近所の畑で頂いた野菜を取り入れている。楽しみとして月に1回バイキングや外食（すし店）等変化をもたせる工夫をしている。利用者は職員と一緒に調理の下ごしらえや、後片付けを行っている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容、量、水分はチェック、記録して日々観察している。1回/2日体重のチェックを行っている。食事や水分にも好みを取り入れている。必要に応じて居室にお茶を入れたポットを用意したり、好みのお菓子などを置いて自由に食されている。（量や期限は毎日チェックして管理している）		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや見守りを行っている。今では習慣となり、ほとんどの方が自ら行っている。義歯は洗浄剤で洗浄を行っている。必要な方や希望される方は家族と相談したうえで1回/1週間、提携歯科による口腔ケアを実施している。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの状態を把握し、現況に合った排泄支援を行っている。変化があれば、カンファレンス会議を行い、家族様へ相談、報告のうえ対応している。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄の状態を把握して支援をしている。パット交換をなるべく自分で出来るよう支援し、見守りや、トイレ誘導、利用者によりリハビリパンツの使用等を行っている。便の排泄もチェックを密に行っている。	

44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンのチェックや個々の体調に合わせ、水分摂取の把握や散歩などの運動、乳製品や果物などの繊維質の摂取などを工夫している。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各ユニットどちらかで入浴を行い、本人が希望する場合は入浴して頂いている。要望があれば、可能な限り好きな時間に入って頂けるよう支援している。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯、又好みの入用剤の使用し、楽しんで頂ける工夫をしている。	基本的に週3回の入浴支援を行っているが2ユニットのため希望者はどちらかで入浴が出来る。浴室は介助スペースが広く、移動時歩行が不安定な人には二人で介助をし、入浴を支援している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の使用していた布団やベッドを用いている。気温の変化に応じて衣服、寝具の調整を行い、布団は随時天日干しをしている。睡眠時間を把握し個々のペースを重視している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの受診には必ずスタッフが付き添い、薬の把握をし状態の変化の観察を行っている。受診前にはミーティング、記録を行い、確認を行っている。服薬管理要領を作成し、それに沿って服薬支援を行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活習慣や得意なことが自信を持ってできるよう支援している。又季節の行事を大切に楽しく参加できるよう、担当で企画している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	随時、買い物や外食、お弁当を持って屋外の公園などに出かけている。又家族様と協力してお墓参り、法事や旅行などが安全に外出できるよう支援している。	日常的な外出支援として個別的な買い物や食材の買出し、かかりつけ医にくすりを取りに行く、又公園の散歩等や季節ごとのお花見にも出かけている。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族様によく説明し万が一紛失しても差し支えない金額であればお金を持って頂いています。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族様や友人からの電話や手紙はすぐに本人に繋ぐようにしている。本人が電話を希望される場合は事務所の電話を使用して頂いている。 年賀状などの交流が途絶えないよう支援している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングから苑庭が見え四季折々の樹木や花が咲いており、季節を感じる事が出来る。又テラスがあり外気に触れながら、ティータイムや談話を楽しむことができる。</p>	<p>利用者は日中は居間でゆったりと寛いでいる。テレビの前にはソファが置かれ、壁には利用者の笑顔の写真や職員の顔写真が貼られている。室内から庭のウッドデッキや外の景色が見られ、落ち着いた家庭的な空気がながれている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>			
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入苑時、家族様に使い慣れた家具や布団などを持ってきて頂く意味を説明し、今までの生活空間に近い配置で安全な居室作りを支援している。</p>	<p>居室には洗面所が付いていて、朝の洗面は利用者にとってゆっくりと行う事が出来る。また、押入れが広く整理し易い。居室には自宅を使い慣れたテーブル、テレビ、時計、仏壇、タンス等が持ちこまれていて、自宅の延長として自分のペースでゆったりと過ごせるようになっている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>日常生活を送るうえで一人ひとりの状態を全スタッフが把握したうえで安全な環境作りを工夫している。意欲的な生活が送れるよう役割を持って頂いている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	②	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	③	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	②	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	③	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	②	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	①	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Aユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を念頭におき、各ユニット間でスタッフによる理念を作り上げ、理念を共有していくために各スタッフが期間、目標、実行計画をたて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や地域の公民館で苑の催しや認知症の方が地域で暮らし続けることの普及活動などを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして地域の方へ養成講座を行い、日常的な対応など実際の事例など取り上げて日々の暮らしの中で出来る工夫などを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告や現在取り組んでいること、又今後の取り組みの報告や説明をして意見を伺い協力や参加をして頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	担当者は普段より、利用者または家族、苑の運営に関わることなど報告や相談しながら、協力して頂いている。又空き情報の確認を行ううえで、当苑へ入苑に至ったケースなどもある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束によるケアは一切行っていない。日中は玄関の施錠はせず、利用者や家族の出入りには注意して必ず見守っている。		

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>当苑では虐待についての研修も行っている、各自厳守に努めている。</p>			
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護や成年後見制度の研修に参加している。又必要と思われる方については包括に相談するなど、家族へ説明をして話し合いながら、協力や支援を行っている。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に重要事項について説明をし、内容を理解して頂き、質問や疑問を互いに確認したうえで契約している。入苑前後に関わらず、随時、質問や疑問などは気軽に連絡して頂けるように説明している。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置や第三者委員の説明を契約時の説明している。カンファレンス会議に家族に参加して頂き、個別に意見や要望を聞く機会を設けている。頂いた意見などはすぐにスタッフ間で改善方法を話し合うようにしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>各棟ミーティングなどに参加し問題や課題について把握するようにしている。個人面談を行い、スタッフ個人々からの質問や要望を聞けるよう、又解決できるように配慮している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各スタッフが抱えている悩みや体調を把握し勤務時間などを考慮している。やりがいを持てるよう目標設定や実行したことに対して向上できるようバックアップを行うようにしている。給与に関してもキャリアパスの表をスタッフに公開している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各スタッフが個々にスキルアップできるよう、大阪社協の研修、市の研修、協力病院の院内研修、苑内においては現況を見ながらその問題に合った研修を行うようにしている。</p>		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市の事業者連絡会を通じて交流している。、地域での講座などは他事業者と合同で開催するなど互いに協力しながら、情報交換をしている。グループホーム情報交換会などにも参加している。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始までに情報に基づいたケアプランを作成し、本人の生活を把握してケアについて検討を重ねている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族からの意向を伺い、ケアプランに反映できるよう、面会時にも積極的にお話しを伺い、普段より関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族のニーズを見極め、把握して新しい苑生活に早く馴染めるよう努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>常に利用者に寄り添い、思いを傾聴して共感している。その人の持っている力を活かして暮らしを共にしている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常に状況、状態の報告、カンファレンス会議にも参加して頂き、家族とスタッフが情報を共有しながら、共に解決し安心して生活が送れるよう努めている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで受診されていた病院へ継続して通院したり、馴染みの美容院へお連れしている。。家族の了解を得てご近所、友人との関係の継続を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や状態を見極めて把握し、無理のない人間関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退苑後も気軽に立ち寄って頂けるような苑づくりを心がけ、相談や支援に努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入苑前より本人や家族、知人だけではなく関わってきたサービス事業者や医療機関からの情報を提供して頂き嗜好や興味のある事や馴染みの事の情報収集に努め本人の話を傾聴し思いや希望を把握している。又情報が共有できるようにセンター方式を活用している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入苑前より自宅や利用されているサービス事業所に訪問し本人の生活や安心される環境を把握していく。入苑後も介護に携わった方たちと関係を保ち連携しながら理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方をセンター方式の焦点情報シートを活用、確認して心身機能の状態に合ったケアやその人らしい生活ができるよう本人のペースを大事に支援している。		

26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の開催、案内を家族に送付し出来るだけ参加して頂けるよう日程調節をおこなったり、書面にて要望や質問などを記入して頂き、本人や家族の望む生活を支援している。モニタリングの結果を具体的にケアに反映していく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式の心身の情報シートや各機能を有する個別記録し（カンファレンス・日毎の介護記録・受診記録・申し送り・連絡ノート）等に記入して、日々の様子の把握、体調変化に気付くことができるよう情報を共有し、チームケアが図れるよう支援している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単独型ユニットの特性を活かし、本人や家族の実情に合わせ、希望やニーズに柔軟な対応を行い、本人の望む生活の支援を目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の協力と理解を得てながら、町内の消防訓練などに参加したり、町内の活動や催しを利用者が安全で安心して参加できるよう協力して頂いている。利用者と共に「苑だより」を町内にお配りしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に添って主治医への受診を継続している。家族同行受診希望の場合は状態報告書を作成し、普段の生活の様子や体調の情報提供をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	担当看護師に日常生活、体調を把握して頂いており、ドクター不在時にも相談を受けて頂いている。		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は本人の情報をすぐに提供し、入院に必要なものや本人が愛用されていたものなどを持参しCWやドクターに家族や本人の状況を報告、情報提供しながら、早期退院に向けて話し合いしている。退院後の苑生活についてはCW、家族と共に本人にとって適切なサービス利用について相談や支援を行っている		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化を職員間で把握し家族には重度化や終末期の在り方について必要に応じて話し合っている。看護師が常駐していないことは契約前に伝えているが、「できない」と決めつけずに、家族や社会資源、主治医、協力医療機関と連携しながら積極的に取り組んでいる。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関、家族との連携を確立し、常に確認している。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。スタッフが担当に積極的に行い、普段よりシュミレーションの話し合いなど行っている。又町内の消防訓練へ参加、苑の消防訓練に参加し、運営推進会議などで協力依頼をしている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別対応を基本としてその人らしく、その人に応じて言葉かけをしている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望があれば買い物や外出をして欲しい物を買って頂いたり、毎月の昼食バイキング形式の食事で食べたいものを選んで頂くなどの小さなことでも自己決定する機会を設けている。		

38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の希望や心身状態の合わせて1日の生活スケジュールを変更できる体制を整えて個々のペースを大切にしている。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>行きたい美容院や洋服店があればお連れしたり、毛染めなどの希望があれば、お手伝いをしている。</p>		
40	<p>15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>菜園で季節毎の野菜の収穫を一緒に行い旬の食材を提供している。週末は買い物の出かけて、一緒に食材を選んで頂いている。</p>		
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>バランスの良い食事を提供し摂取量を記録している。水分が不足がちの方はチェック表に記録し確保できるように努めている。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後は個別に口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄している。週1回連携歯科による口腔ケアをして頂いている。</p>		
43	<p>16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの状態を把握し、現況に合った排泄支援を行っている。変化があれば、カンファレンス会議を行い、家族様へ相談、報告のうえ対応している。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>それぞれの方の排便状況、リズムを把握し状態に応じて服薬調整している。献立の工夫や水分、乳製品の摂取、軽体操を行うなどの予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>各ユニットどちらかで入浴を行い、本人が希望する場合は入浴して頂いている。要望があれば、可能な限り好きな時間に入って頂けるよう支援している。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯、又好みの入用剤の使用し、楽しんで頂ける工夫をしている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>好みや状態に応じてベッドや布団を使って頂いている。天気の良い日は一緒に布団干しを行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人ひとりの受診には必ずスタッフが付き添い、薬の把握をし状態の変化の観察を行っている。受診前にはミーティング、記録を行い、必ず確認して処方箋通りに確実に服薬して頂いている。変化があれば、直ぐにドクター、看護師に連絡して指示を仰いでいる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事の下ごしらえ、準備、下膳や拭き掃除、ゴミ出し、洗濯もの干し、たたみなど日々の家事を一緒に行いそれぞれの役割をもって頂いている。苑内にて季節毎の行事や歌や踊り、手品などの訪問もあり、楽しまれている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>天候が良い日は近所を散歩したり、定期的に外食や花見、買い物などの外出もあり、町内の盆踊り、地車見物などにも参加している。</p>		

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>生活状況や家族や本人の意向を考慮して本人の希望があれば、一緒に外出し、買いたい物を買って頂いている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望があれば苑内の電話を使って頂いている。本人への電話や手紙は直ぐにお渡しして自由にやりとりをしている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングから苑庭が見え四季折々の樹木や花が咲いていおり、季節をかんじることができる。又テラスがあり外気に触れながら、ティータイムや談話を楽しむことができる。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事の時は、体調に合わせて摂取量や形態に違う内容の方に配慮して決まった席に座って頂いているが、それ以外は自由に行き来でき、リビングにはソファや玄関や廊下には椅子を設置している。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全室、畳敷きで洗面台を設置している。家具やテーブルなどは馴染みの物を持ってきて頂き、本人の好みや状態に応じてベッドや布団を使い分けている。写真、小物など自由に飾って頂いている。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は全面バリアフリーにしている。随所に手すりを設置し、リビングからは全居室入口が見渡せる。居室入口は引き戸にしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	①	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	②	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	①	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	①	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①-	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない